

授業科目	基礎分野
回数(単位)	看護に生かす統計学
開講年次	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
学習目標	2年次 前期
関連科目	看護研究にいかす統計の基礎を学ぶ
学習内容	看護研究
授業時間外学習 (事前・事後)	1. 統計とは……………統計の活用と専門用語(プレ調査) 2. データのばらつきとは……………平均と分散(確認テスト) 3. データの抽出とは(その1)…母集団の平均と分散を推定(確認テスト) 4. データの抽出とは(その2)……区間推定と信頼区間(確認テスト) 5. 2つのデータ群を比較する(その1)……カイ2乗検定(確認テスト) 6. 2つのデータ群を比較する(その2)……t検定:対応なし(確認テスト) 7. 2つのデータ群を比較する(その3)……t検定:対応あり(確認テスト) 8. テスト
評価方法	
教科書	筆記試験(100点満点)
参考文献	なし
講師のコメント	

区分	基礎分野
授業科目	人間関係論
回数(単位)	15回(テスト含む) (2単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	(1) 対人援助職として、適切な人間関係を築いていくための態度や能力を修得することができる。 (2) 自己認知、他者認知、集団のメカニズムの理論を理解することができる。 (3) ワークを通して、自己理解、他者理解、関係性理解を深めることができる。
関連科目	心理学 基礎看護技術1
学習内容	(1) 看護における人間関係の様相 (2) ワーク: 投影法などを用いた関係性理解 (3) 自己認知 (4) ワーク: TSTなどを用いた自己理解 (5) 対人認知 (6) ワーク: リフレーミングなどを用いた他者理解 (7) 対人行動と態度 (8) ワーク: コミュニケーションの伝達理解 (9) 集団のメカニズム (10) ワーク: 個人と集団について考える (11) コミュニケーションチャネルとソーシャルスキル (12) ワーク: アサーショントレーニング (13) カウンセリング技法 (14) ワーク: ロールプレイ (15) 確認テスト、授業のまとめ
授業時間外学習 (事前・事後)	事前学習: 患者さんと接する場面及びチーム医療場面におけるコミュニケーションの難しさ・心地よさの具体的事例を集めておく。 事後学習: 授業を通して得た学びを、看護場面における事例の中で確認し、自身の対人関係の持ち方を振り返る。
評価方法	授業への参加態度(30%)、最終回での確認テスト(70%) 100点満点
教科書	なし。適宜、資料配布。
参考文献	適宜、紹介する。
講師のコメント	理論とワークを交互に学びます。ワークは積極的に取り組みましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術9
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	<p>与薬</p> <p>1. 安全で確実な注射技術が提供できるよう、正確な知識と確実な技術を身に付けることができる</p> <p>2. 筋肉内注射・皮下注射が安全・正確に実施できる</p> <p>輸血</p> <p>1. 血液製剤の種類と取り扱い方がわかる</p> <p>2. 輸血における合併症や輸血時の援助方法と観察がわかる</p>
関連科目	看護形態機能学1、2 薬理学 医療安全
学習内容	<p>安全で正確な与薬の技術</p> <p>1. 与薬</p> <p>1) 与薬の基礎知識 看護に必要な薬理学に関する知識 与薬における医療事故と誤薬防止のための取り組み (演習:ロールプレイ)</p> <p>2) 経口的与薬の種類・目的・注意点 (演習)</p> <p>3) 外用薬の種類・目的・注意点</p> <p>4) 注射法の種類・目的・注意点 皮下注射・筋肉内注射 (演習 模型使用) 静脈内注射・点滴静脈内注射 (演習 模型使用) 皮内注射</p> <p>2. 輸血</p> <p>1) 輸血とは</p> <p>2) 輸血の種類と取り扱い</p> <p>3) 輸血の副作用と合併症</p> <p>4) 輸血の準備と手順 (演習)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	<p>事前課題: 与薬による医療事故についてレポート</p> <p>事後課題: 振り返りレポート</p>
評価方法	筆記試験＋演習レポート (100点満点)
教科書	<p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)</p> <p>看護学生・新人看護師のための分かりやすい与薬 (医学評論社)</p> <p>医療安全ワークブック (医学書院)</p>
参考文献	看護がみえるvol.2 臨床看護技術 (MEDIC MEDIA)
講師のコメント	<p>与薬はリスクが起こりやすい看護技術です。演習を行いながらリスク感性も磨いていきましょう。注射は実技試験がありますので、練習に励んでください。練習すれば必ず上達します。正確な技術が求められますので、不明な点はそのままにせず、充分理解した上での技術習得になるよう頑張りをしましょう。</p>

区分	専門分野
授業科目	フィジカルアセスメント
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 看護の視点からフィジカルアセスメントを行う重要性について理解する 2. 系統的フィジカルイグザミネーションを習得できる 3. フィジカルイグザミネーションで得た情報と知識を活用して看護援助に結びつくアセスメント方法がわかる
関連科目	看護形態機能学1～4 疾病論 成人看護学方法論 基礎看護技術1
学習内容	1. フィジカルアセスメントの概念 1) フィジカルアセスメントとは 2) フィジカルアセスメントの目的と意義 3) フィジカルアセスメントの基本技術(問診・視診・触診・打診・聴診) 2. 全身状態のフィジカルアセスメント (一般状態のアセスメントおよび系統別:皮膚・リンパ節・頭頸部を含む) 3. 系統別フィジカルアセスメント 1)呼吸器系のフィジカルアセスメント 2)消化器系のフィジカルアセスメント 【校内実習: 呼吸音・腸蠕動音聴取…フィジコ使用】 4. 脳・神経系のフィジカルアセスメント 5. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 6. ケーススタディ 意識障害 嚥下障害 【演習】 7. 循環器系のフィジカルアセスメント 8. ケーススタディ 心不全 末梢循環障害 【演習】
授業時間外学習 (事前・事後)	事前学習として呼吸器系・消化器系・循環器系・脳神経系の解剖生理を復習 (特に嚥下機能に関する内容・心臓血管系の形態)
評価方法	筆記試験・課題 100点 (内 実技試験20点)
教科書	はじめてのフィジカルアセスメント (メヂカルフレンド社) 人体の構造と機能① 解剖生理学 (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 看護技術プラクティス(学研) 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	形態機能学の知識が必要です。授業には形態機能学のテキストを持参するといいいでしょう。 呼吸器系フィジカルアセスメントについては実技試験を行います。

区分	専門分野
授業科目	臨床判断看護論
回数(単位)	7.5回(テスト含む)(1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 【事前課題】事例患者の発達段階・疾患・治療・病期から対象の状況を予測できる 2. 対象への予測から優先順位をつけ初期把握できる 3. 状態観察で得られたデータからの情報の解釈ができ、必要な反応について考えることができる 4. 結果から省察でき、臨床判断のプロセスにおける自己の課題を明らかにすることができる
関連科目	看護形態機能学 病態生理学 薬理学 疾病論 基礎看護技術 フィジカルアセスメント 成人看護学方法論 老年看護学方法論
学習内容	1. 【事前課題】事例患者の病態、治療、看護について学習する。(夏期休暇) 2. 机上シミュレーション 事例患者を用いて、臨床判断モデルの4つのステップ(気づき・解釈・反応・省察)について考える。 3. シミュレーション演習 ・事例患者への実践を通し、臨床判断モデルの4つのステップ(気づき・解釈・反応・省察)の実際を学ぶ。 ・事後検討を行う。【グループワーク】 ・体験を振り返り、自己課題を明らかにする。
授業時間外学習 (事前・事後)	事前: 事例の疾患看護を学習した上で、机上シミュレーション及びシミュレーション演習に臨むこと 事後: 基礎看護学実習2の終了後にレポート提出あり
評価方法	100点満点(レポート提出、出欠席にて評価)
教科書	解剖生理学 看護形態機能学 看護につなげる看護形態機能学 病態生理学 薬理学
参考文献	
講師のコメント	『看護師のように考える』ことを目指し、看護師が臨床で「気づき」「解釈」し、実践に繋げていく思考過程を学ぶ科目です。演習での看護実践は動画撮影し、それをもとにグループによる事後検討をする中で臨床判断における思考のステップを学んでいきます。よって、グループでの事後検討と自身のリフレクションが大きな学びへと繋がりますので、グループワークが中心となりますが、体験を振り返る中で、自己の課題を見つけ基礎看護学実習2に繋げましょう。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護概論
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 人々の多様な暮らし方や価値観を知り、看護のあり方について考えることができる。 2. 看護が提供される多様な場を理解し、多職種との協働の重要性を考えて事例検討に生かすことができる。 3. 地域・在宅看護にかかわる法令、制度、施策から、訪問看護を利用するために必要な流れが理解できる。 4. 地域包括ケアシステムと構築された背景を理解し、地域における看護を考えることができる。
関連科目	公衆衛生学 社会学 社会福祉学 関係法規 地域・在宅看護基礎論 地域・在宅看護方法論1～4
学習内容	1. 地域包括ケアシステムと地域・在宅看護の役割 2. 地域・在宅看護の対象者 3. 多様化する看護の場と多職種の連携について 4. 自助・互助・共助・公助の意義(インフォーマルネットワークを含む) 5. 地域・在宅看護に関わる制度とその活用 6. 訪問看護制度と訪問看護ステーションに関する規程 7. 訪問看護師の役割
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:介護保険制度について 社会資源について 事後:講義の復習
評価方法	筆記試験(70点) 課題(30点)
教科書	地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	地域・在宅看護は、地域で暮らす全ての人々が看護の対象であり、基礎看護学と並び各専門領域の基盤です。対象の健康問題の程度にかかわらず人々が住み慣れた地域でその人らしい暮らしを送ることを支えるための看護の概要を学びます。日本が抱える問題など社会の動向に関心を持ち、関連する内容について情報収集しながら学んでいって下さい。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 1
回数(単位)	15回(テストを含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 地域で暮らす人々を支える多職種との協働の意義を理解する。 2. 地域で暮らす人々とその家族を支えるための視点を理解し、紙面上の対象のアセスメントが行える。 3. ケアマネジメントと退院支援について理解し、各期の看護が理解できる。 4. 地域で暮らす人々の暮らしを支える生活援助について理解できる。 5. 地域で暮らす人々の安全を守る看護について理解できる。
関連科目	社会福祉学 基礎看護技術2. 3. 4・5・9 医療安全2
学習内容	1. 地域暮らしを継続する人々を支える多職種連携の意義 2. 看護の継続性と退院支援 3. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉用具の選択基準と活用方法 4. 地域で療養する人々とその家族の看護に必要なアセスメントの視点 1)健康状態 2)生活環境 3)生活習慣 4)介護力 5)使用しているサービス 6)思い・意思・考え・希望・願いなど 5. 地域で暮らす人々の自立を促す(支える)生活援助とリスクマネジメント 1)リフト移動 2)洗髪 3)入浴介助 4)摘便 5)口腔ケア(義歯の取り扱い) 1)～5)【演習】 6. 地域で暮らす人々の災害時における危機管理 7. 地域在宅におけるエンドオブライフケア
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:日常生活援助のアセスメント、支援の復習 事後:講義の復習
評価方法	筆記試験(70点) 課題(30点)
教科書	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	みなさんは「自立」をどのように理解していますか。地域・在宅看護論では「自立」とは、なんでも一人でできることではなく、地域でその人らしく暮らしていけること。病気や障がい、加齢などから暮らしにくさを感じている人が地域で安心・安全に自立した暮らしを送るために何ができるかをじっくりと考えながら学んで下さい。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 2
回数(単位)	15回(テストを含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 暮らしの場で行われる医療処置について理解する。 2. 医療処置を必要とする在宅療養者と家族を支える看護を理解する。
関連科目	基礎看護技術2.5.7.8.9 フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護学方法論1.2.3.4 老年看護学方法論2
学習内容	1. 暮らしの場で行われる医療処置と看護技術 2. 医療処置を必要とする療養者と家族への看護（観察・トラブル・合併症の予防・対処、療養者・家族の生活指導） 【演習】 1)在宅経管栄養法 2)在宅中心静脈栄養法 3)膀胱留置カテーテル 4)与薬管理 5)在宅酸素療法 6)吸引 7)褥そうケア *トータルアセスメントの視点
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:関連科目、看護の復習 事後:個別性を考慮した看護支援についてレポート提出
評価方法	筆記試験:90点(石川・清水) 個人課題:10点(稲垣)
教科書	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	既習の知識を活用し、在宅で暮らす対象に対する支援方法について学びます。イメージができるよう演習を行い、事例検討しながら具体的な支援について学びます。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 3
回数(単位)	5.5回 (テストを含む)(3講師で1単位15時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントについて理解する。 2. 在宅療養における意思決定支援(自己決定支援、ACPを含む)のプロセスと看護師の役割を理解する。 3. 事例を通して多職種との協働の重要性を理解する。
関連科目	倫理学 基礎看護技術7 地域・在宅看護基礎論 地域・在宅看護方法論1・2・4
学習内容	1. 意思決定支援における看護 2. 多職種との協働の重要性 3. 在宅療養者の暮らしを支えるための具体的な介入方法と内容 4. 地域における終末期看護
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	レポート (100点満点)
教科書	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	<p>・グループワークを多く取り入れた授業です。テーマ討議をすることもあります。自己の考えを述べることで自己の価値観に気づき、また、他者の意見から多様な価値観を知り、新たな価値観を生むこともあります。相手を尊重したコミュニケーション方法についても意識し、実践しましょう。</p> <p>・対象となる「人間」は、みなそれぞれの価値観や物語に基づいた人生を生きています。多様な価値観を尊重しながら倫理的な医療者になるために、想像力や感性を磨くことが望まれます。日頃から医療や看護以外の本を読むこと、映画を観ること、音楽を楽しむこと、色々な立場の人達と知り合うことを大切にしてください。</p>

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 3
回数(単位)	1回(3講師で1単位15時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントについて理解する。 2. 在宅療養における意思決定支援(自己決定支援、ACPを含む)のプロセスと看護師の役割を理解する。 3. 事例を通して多職種との協働の重要性を理解する。
関連科目	倫理学 基礎看護技術7 地域・在宅看護基礎論 地域・在宅看護方法論1・2・4
学習内容	1. 意思決定支援における看護 2. 多職種との協働の重要性 3. 在宅療養者の暮らしを支えるための具体的な介入方法と内容 4. 地域における終末期看護
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	レポート
教科書	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	・対象となる「人間」は、みなそれぞれの価値観や物語に基づいた人生を生きています。多様な価値観を尊重しながら倫理的な医療者になるために、想像力や感性を磨くことが望まれます。日頃から医療や看護以外の本を読むこと、映画を観ること、音楽を楽しむこと、色々な立場の人達と知り合うことを大切にしてください。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護方法論 3
回数(単位)	1回(3講師で1単位15時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントについて理解する。 2. 在宅療養における意思決定支援(自己決定支援、ACPを含む)のプロセスと看護師の役割を理解する。 3. 事例を通して多職種との協働の重要性を理解する。
関連科目	倫理学 基礎看護技術7 地域・在宅看護基礎論 地域・在宅看護方法論1・2・4
学習内容	1. 意思決定支援における看護 2. 多職種との協働の重要性 3. 在宅療養者の暮らしを支えるための具体的な介入方法と内容 4. 地域における終末期看護
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	レポート
教科書	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	・対象となる「人間」は、みなそれぞれの価値観や物語に基づいた人生を生きています。多様な価値観を尊重しながら倫理的な医療者になるために、想像力や感性を磨くことが望まれます。日頃から医療や看護以外の本を読むこと、映画を観ること、音楽を楽しむこと、色々な立場の人達と知り合うことを大切にしてください。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論2
時間数	6回(テスト含む)(3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 消化吸収機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論2
学習内容	1. 消化吸収機能障害をもつ成人の看護 1) 消化吸収機能障害と日常生活 2) 消化吸収機能障害の把握と看護 腹痛、嘔吐、イレウス、吐血、下血、下痢 3) 消化吸収機能障害の検査治療に伴う看護 消化吸収機能障害をもつ対象の看護(ダンピング症候群) 4) 急性の経過をたどる対象の看護(胃切除術・直腸切除術)
授業時間外学習 (事前・事後)	・関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む ・機能障害をもつ方の生活を疑似体験し、生活者として心身にどのような影響があるかをレポートする
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	機能障害からみた成人看護学② 消化吸収機能障害/ 栄養代謝機能障害(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	疾病により機能障害が生じることは、生活上どのように影響するかをじっくりと考えましょう。その上で、機能障害を抱えながら生活していく人に必要な看護を考えていきましょう。事例を用いて各機能障害の把握に必要な視点や、健康の維持・回復に向けた看護方法について学習を進めていきます。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論2
時間数	5回（3講師で1単位30時間）
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 栄養代謝機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論2
学習内容	1. 栄養代謝機能障害をもつ成人の看護 1) 栄養代謝機能障害と日常生活 2) 栄養代謝機能障害の把握と看護 浮腫(腹水) 3) 栄養代謝機能障害の検査治療に伴う看護 肝機能障害をもつ対象の看護(食事・安静・薬物) 脾臓機能障害をもつ対象の看護(食事・安静・薬物) 4) 栄養代謝機能障害をもつ対象の看護 急性から慢性の経過をたどる対象の看護(脾炎) 慢性の経過をたどる対象の看護(肝硬変)
授業時間外学習 (事前・事後)	・関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む ・機能障害をもつ方の生活を疑似体験し、生活者として心身にどのような影響があるかをレポートする
評価方法	筆記試験(35点満点)
教科書	機能障害からみた成人看護学② 消化吸収機能障害/ 栄養代謝機能障害(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	疾病により機能障害が生じることは、生活上どのように影響するかをじっくりと考えましょう。その上で、機能障害を抱えながら生活していく人に必要な看護を考えていきましょう。事例を用いて各機能障害の把握に必要な視点や、健康の維持・回復に向けた看護方法について学習を進めていきます。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論2
時間数	4回（3講師で1単位30時間）
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 内部環境調整機能障害(腎)をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論3
学習内容	1. 内部環境調整機能障害をもつ成人の看護 1) 内部環境調整機能障害と日常生活 2) 内部環境調整機能障害の把握と看護 浮腫 3) 内部環境調整機能障害の検査治療に伴う看護 腎不全に陥った対象の看護(食事・安静・薬物・透析) 4) 内部環境調整機能障害をもつ対象の看護 慢性の経過をたどる対象の看護(腎不全)
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験(25点)
教科書	機能障害からみた成人看護学③ 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論3
回数(単位)	7.5回 (テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 体温調節機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する 2. 血糖調節機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論2
学習内容	1. 体温調節機能障害をもつ成人の看護 1) 体温の調節機能障害と日常生活 2) 体温の調節機能障害の把握と看護 発熱 3) 体温の調節機能障害の検査治療に伴う看護 急性～慢性の経過をたどる対象とその家族の看護(バセドウ病の看護) 2. 血糖調節機能障害をもつ成人の看護 1) 血糖の調節機能障害と日常生活 2) 血糖の調節機能障害の把握と看護 低血糖、高血糖(動脈硬化を含む) 【演習:血糖値測定】 3) 血糖の調節機能障害の検査治療に伴う看護 血糖調整機能低下した対象の看護(食事、運動、薬物、血糖測定) 4) 血糖の調節機能障害をもつ患者とその家族の看護 慢性の経過をたどる対象の看護(糖尿病) 5) 血糖調節機能障害をもつ成人の看護を考える 【演習:グループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験、課題あわせて100点
教科書	機能障害からみた成人看護学③ 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論4
回数(単位)	4回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 身体防御機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論3
学習内容	1. 身体防御機能障害をもつ成人の看護 1) 身体防御機能障害と日常生活 2) 身体防御機能障害の把握と看護 出血傾向、貧血、易感染状態 3) 身体防御機能障害の検査治療に伴う看護 骨髄穿刺時の看護、骨髄移植を受ける対象の看護 化学療法を受ける対象の看護 4) 身体防御機能障害をもつ対象の看護 慢性の経過をたどる対象への看護(白血病)
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	機能障害からみた成人看護学③ 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論4
時間数	5回（3講師で1単位30時間）
開講年次	2年次前期
学習目標	1. 運動機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論4
学習内容	1. 運動機能障害をもつ成人の看護 1) 運動機能障害と日常生活 2) 運動機能障害の把握と看護 3) 運動機能障害の検査治療に伴う看護 人工関節術後の対象の看護、脊柱術後の対象の看護 牽引・ギプス中の対象の看護、椎間板・脊柱管造影を受ける対象の看護 4) 運動機能障害をもつ対象の看護 急性～回復の経過をたどる対象の看護 ・変形性股関節症 ・脊椎損傷（性・生殖機能障害も含む）
授業時間外学習 （事前・事後）	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験（35点）
教科書	機能障害からみた成人看護学⑤ 運動機能障害/性・生殖機能障害（メジカルフレンド社）
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論4
時間数	6回（テストを含む）（3講師で1単位30時間）
開講年次	2年次前期
学習目標	1. がん医療の現状を学び、がん患者の背景を理解することができる 2. がんの病態や診断について理解することができる 3. がん治療と看護について理解することができる
関連科目	公衆衛生学 病態生理学 基礎看護技術7 成人看護学概論 成人看護学方法論1・2・3
学習内容	1. がん医療の現状と看護 1)がんを取り巻く状況 2)がんの疫学とリスク要因 3)がんの予防と早期発見 4)エビデンスと看護実践 5)倫理的課題と対応 2. がんの病態と診断 1)がんの生物学的特性 2)がん特有の病態と徴候 3)がんの診断 3. がんの治療と看護 1)がん治療の概要とがん治療における看護の重要性 2)手術療法と看護 3)薬物療法と看護 4)放射線療法と看護 5)造血幹細胞移植と看護 4. がん患者の看護 1)がん患者の対象と場 2)がん患者の苦痛のマネジメント 3)がん患者に対する心理的・社会的サポート 4)外来がん看護 5)がん患者の療養支援
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(40点)
教科書	系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論5
時間数	11回(テスト含む) (2講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 手術が生体に及ぼす影響と生体反応について理解する 2. 術前・術後の看護について理解する
関連科目	病態生理学、疾病論1、疾病論2、疾病論3、フィジカルアセスメント、成人看護方法論2
学習内容	1. 手術および麻酔侵襲と生体反応 2. 術後の全身管理、術後合併症と要因 1) 手術侵襲の循環器・呼吸器系への影響と看護 2) 手術侵襲の消化器への影響 3) 栄養代謝の変化と看護 3. 術後合併症の予防の看護と管理 1) 術後患者の観察と早期離床の援助 2) 手術後の急性疼痛・術後PONV・術後せん妄と看護 4. 術前の看護 5. 術直後の患者観察と看護 【演習:シミュレーション学習】 ・ドレーン挿入中の看護、創保護 6. 術後患者の離床を考える 【演習:グループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験と課題あわせて75点
教科書	周手術期看護1. 2(医歯薬出版)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論5
時間数	4回（2講師で1単位30時間）
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 周手術期(術中)における看護について理解する 2. 全身麻酔・局所麻酔を理解し、全身への影響について理解する
関連科目	病態生理学
学習内容	1. 周手術期における麻酔 2. 手術室における患者の看護
授業時間外学習 (事前・事後)	・関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む ・周手術期看護1(医歯薬出版)第3章「硬膜外麻酔法と全身麻酔法の理解」 P91～95を事前に読んで臨む
評価方法	筆記試験(25点)
教科書	周手術期看護1. 2(医歯薬出版)
参考文献	解剖生理学(医学書院)      看護形態機能学(日本看護協会出版会)
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論6
時間数	7.5回（テスト含む）（1単位15時間）
開講年次	2年次前期
学習目標	事例を通して生活習慣病を持つ成人の看護方法を理解する 1. 紙上患者を用いて看護過程演習を行い成人を対象とする看護を理解する 2. 看護過程で立案した看護計画を模擬患者（紙上患者）に実践・振り返りをし、問題解決のプロセスがわかる
関連科目	疾病論3 基礎看護技術6 成人看護方法論3
学習内容	慢性疾患を持つ成人期にある対象の看護 2型糖尿病事例を用いた看護展開（校内演習）  自己課題の明確化とビジョンゴールの設定 A氏の病状を理解する ゴードンの機能パターンを活用し対象の問題を抽出する 問題の統合と看護目標、援助計画を立案する A氏への援助を考える（指導案の立案） 模擬A氏への指導実践をおこなう
授業時間外学習 （事前・事後）	授業ではクラスでの共有を中心にすすめていきます。そのため、授業時間外での自己学習が多くなります。授業で共有したことは随時追加・修正し、次の授業までに新しい課題に向けて取り組んでもらうことを毎回繰り返していきます。
評価方法	課題 演習評価（あわせて100点）
教科書	機能障害からみた成人看護学③ 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害（メヂカルフレンド社） 実践 看護アセスメント（ヌーベルヒロカワ） 基礎看護技術② 基礎看護技術 I（メヂカルフレンド）
参考文献	
講師のコメント	看護過程は問題解決思考で、みなさんが日常的に使っている考え方と同じです。苦手意識を持たず、根拠をもって看護が実践できるような考え方を身に付けていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	老年看護学方法論1
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	高齢者に生じやすい生活障害と加齢変化の関連を知り、それに応じた看護を理解することができる。
関連科目	看護形態機能学3. 4 基礎看護技術2 栄養学 老年看護学概論
学習内容	1. 老化による機能低下と基本的対応 2. 老年看護の基本技術 その1 ①生活を支える看護 コミュニケーション障害への援助 ②食生活を支える看護 栄養・食事ケア 脱水 摂食・嚥下障害のケア ③排泄を支える看護 排泄のケア(前立腺肥大・尿失禁・便秘・下痢)
授業時間外学習 (事前・事後)	高齢者に生じやすい事例をもとに課題に取り組む
評価方法	筆記試験 (90点満点) 課題(10点満点)
教科書	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践(メディカ出版)
参考文献	老年看護技術 第4版 (メヂカルフレンド社)
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	老年看護学方法論2
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	加齢に伴う機能低下や健康障害が日常生活に及ぼす影響と、ケアの方法を立案する力を養う
関連科目	看護形態機能学2. 4 医療安全2 基礎看護技術3～8 疾病論2. 4
学習内容	1. 老年看護の基本技術 その2 ①清潔・衣生活を支える看護 清潔・衣生活(スキンケア・口腔ケア) 掻痒(かゆみ) 痛みのケア(しびれ) 感染症 ②活動と休息を支える援助 睡眠のケア ③歩行・移動を支える看護 褥瘡ケア(浮腫) 事故防止・転倒予防 2. 高齢者とリハビリテーション 3. 終末期ケア 4. 高齢者と災害看護 2～4については【演習:グループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	高齢者の視点に目を向け、リハビリテーション看護・終末期看護・災害看護の事例課題に取り組む
評価方法	筆記試験 (85点満点) 課題(15点満点)
教科書	ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践(メディカ出版)
参考文献	老年看護技術 第4版 (メヂカルフレンド社)
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	老年看護学方法論3
回数(単位)	6回 + 2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 脳・神経機能障害を持つ高齢者の特徴と看護の方法を理解する 2. 機能障害を持ったまま退院する高齢者への必要な看護の視点について理解する
関連科目	看護形態機能学 疾病論4
学習内容	1. 脳・神経機能障害をもつ高齢者の看護 1) 脳・神経機能障害と日常生活 2) 脳・神経機能障害の把握と看護 頭蓋内圧亢進、意識障害、高次脳機能障害、言語機能障害 3) 脳・神経機能障害の検査治療に伴う看護 髄液検査時の看護 開頭術後の対象の看護、抗凝固療法中の対象の看護 4) 脳・神経機能障害をもつ対象の看護 急性～回復の経過をたどる対象の看護(梗塞・出血) 【演習: ケーススタディ (退院に向けての支援 事例)】
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	別巻 機能障害からみた成人看護学④ 脳神経機能障害(メジカルフレンド社)ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践(メディカ出版)
参考文献	
講師のコメント	入院時より退院後の生活を見据えた看護を展開することは重要です。事例を通し退院に向けて必要なアセスメントの視点について具体的に考えましょう。

区分	専門分野
授業科目	老年看護学方法論3
回数(単位)	9回(2講師でテスト1回含む)(2講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 認知症高齢者の看護を実践するための基礎的知識・技術について理解する 2. エンド・オブ・ライフケアを見据えた高齢者看護のあり方について考える
関連科目	看護形態機能学1 疾病論4 老年看護学概論
学習内容	1. 認知症の基礎知識 1) 認知症とは 2) 中核症状とBPSD 2. 認知症高齢者の看護 1) 認知症症状の理解とケア 2) 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 ・ ユマニチュード 【演習・グループワーク】 3. エンド・オブ・ライフケアを見据えた高齢者看護のあり方
授業時間外学習 (事前・事後)	認知症高齢者の関わり方について事例をもとに課題に取り組む ユマニチュードの演習の課題に取り組む
評価方法	筆記試験(50点満点) + 課題(10点満点) 計60点
教科書	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践(メディカ出版)
参考文献	
講師のコメント	認知症高齢者の世界を理解し、関り方について一緒に考えていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	小児看護学概論
回数(単位)	7.5回(テストを含む)(1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	小児看護の対象となる子どもの特性を理解し、看護の役割について学ぶ
関連科目	基礎看護学概論 公衆衛生学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもとは</li> <li>2. 小児看護の理念</li> <li>3. 小児看護の変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)小児医療・小児看護の現状と課題に対するの対策 【演習:グループワーク・ジグソー法による発表会】</li> </ol> </li> <li>4. 小児看護における倫理</li> <li>5. 子どもとヘルスプロモーション</li> <li>6. 子どもと家族に関する衛生統計</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	厚生労働省ホームページ等、子どもと家族の健康に関する最近のデータについても把握をしておきましょう。
評価方法	筆記試験、課題あわせて100点
教科書	小児看護学 I (南江堂)/写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 国民衛生の動向 公衆衛生学(メヂカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	現代は家族のあり方も多様化しています。小児を取り巻く社会や状況を理解した上で、子どもの権利を尊重した援助の必要性について考えてみましょう

区分	専門分野
授業科目	小児看護学方法論1
回数(単位)	15回(テストを含む)(1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 子どもの成長発達と発達課題を理解する 2. 子どもが健康な生活を送るために必要な援助を学ぶ
関連科目	
学習内容	1. 子どもの成長発達総論 2. 子どもの成長・発達 3. 子どもの特徴と支援 1) 新生児期 2) 乳児期 3) 新生児・乳児期のケアの実際 【校内実習:調乳、離乳食の試食】 4) 幼児期 5) 学童期 6) 思春期 3. 家族の特徴とアセスメント 4. 子どもの事故・外傷と看護
授業時間外学習 (事前・事後)	各自の子ども時代のことを家族に聞いたり、記憶を辿ってみよう
評価方法	筆記試験、遊びの援助レポートあわせて100点満点
教科書	小児看護学Ⅰ・Ⅱ(南江堂) 写真でわかる小児看護技術(インターメディカ)
参考文献	
講師のコメント	この講義の後に続く小児看護学方法論2～3、小児看護学実習の基盤となるため、学習を通して子どものイメージができるとよいでしょう

区分	専門分野
授業科目	小児看護学方法論2
回数(単位)	7.5回(テストを含む)(1単位15時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	健康障害をもつ子どもと家族に適切な看護ができる基礎的知識を理解する
関連科目	疾病論6
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来・入院における子どもと家族の看護</li> <li>2. 疾患の経過と看護</li> <li>3. 症状別にみる子どもの看護</li> <li>4. 検査・処置・手術を受ける子どもと家族の看護</li> <li>5. 認知発達と病気の理解</li> <li>6. 演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いたプレパレーション【演習:グループワーク】</li> <li>・小児看護技術&lt;バイタルサイン、与薬&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>【校内実習:座薬、血圧マンシェットの巻き方、心音の聴診】</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>7. 災害を受けた子どもと家族の看護</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:新生児期から思春期における、成長発達の基礎的知識をもって臨むこと。
評価方法	筆記試験、課題あわせて100点満点
教科書	小児看護学Ⅰ・Ⅱ(南江堂)／写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	疾患だけでなく、子どもと家族の置かれている状況を理解できてこそ、その子どもと家族に合った援助ができます。外来と入院における看護の違いや、手術、検査時など、さまざまな状況にある子どもと家族の援助を一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	小児看護学方法論3
回数(単位)	8回(2講師でテスト1回含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	2年次 後期
学習目標	紙上患者を用いて看護過程演習を行い、小児とその家族を対象とする看護を理解する
関連科目	疾病論6
学習内容	小児特有の疾患をもつ子どもの看護 事例を用いた看護展開 【演習:グループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	事例課題のプリントを配布しますので、期日までに各自で取り組んで講義に臨んでください。
評価方法	看護過程課題・演習評価(50点満点)
教科書	小児看護学概論(南江堂)／写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	グループワークでの演習を重ねながら講義は進んでいきます。積極的に意見交換を行い、理解を深めていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	小児看護学方法論3
回数(単位)	7回 + 2講師でテスト1回(2講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	さまざまな疾患をもつ子どもと家族への看護を理解する。
関連科目	疾病論6
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 川崎病をもつ子どもと家族の看護</li> <li>2. 気管支喘息の子どもと家族の看護</li> <li>3. ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護</li> <li>4. 1型糖尿病の子どもと家族の看護</li> <li>5. 小児がんの子どもと家族の看護 白血病の子どもと家族の看護</li> <li>6. 髄膜炎の子どもと家族の看護</li> <li>7. 点頭てんかんの子どもと家族の看護</li> <li>8. 肺炎の子どもと家族の看護</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	小児看護学概論(南江堂)／写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	母性看護学概論
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性の特性から、母性看護の概念を理解する</li> <li>2. リプロダクティブヘルスの意義を理解する</li> <li>3. 女性のライフサイクル各期の特徴を学び、健康上の課題とニーズを理解する</li> <li>4. 母子保健をめぐる動向と、それを支える体制について理解する</li> </ol>
関連科目	社会学 看護形態機能学3
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性および母性看護の概念</li> <li>2. 母性看護実践の基盤となる理論/概念</li> <li>3. 母性看護の対象理解</li> <li>4. 女性のライフサイクル各期における健康問題と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 思春期の健康と看護</li> <li>2) 成熟期の健康と看護</li> <li>3) 更年期・老年期の健康と看護</li> </ol> </li> <li>5. 母子保健行政および、母子保健統計</li> <li>6. 母性看護にかかわる倫理</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	性周期の仕組みの理解を深めるために、基礎体温を測定しレポートしてもらいます。 形態機能学3で学んだ性周期の仕組みを復習しておくこと
評価方法	筆記試験(80点) レポート(20点) (100点満点)
教科書	母性看護学① 母性看護学概論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	母性看護の概念を学びます。 他の分野と異なる母性看護の特徴を楽しく共に学びましょう。

区分	専門分野
授業科目	母性看護学方法論 1
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 前期
科目目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の対象の身体的・心理的・社会的変化とそれらへの適応を理解する 2. 妊娠・分娩・産褥期の対象のセルフケアと健康を促進するための看護を理解する 3. 新生児の母体外生活適応過程と看護援助を理解する 4. 母と子の関係、役割取得過程や家族形成の援助を理解する
関連科目	社会学 看護形態機能学3 疾病論5 母性看護学概論 母性看護学方法論2. 3
教育内容	1. 妊婦の理解 1) 妊婦のアセスメント 2) 妊婦の心理的・社会的特性と健康問題 3) 妊婦と家族の看護 2. 産婦の理解 1) 産婦・胎児・家族のアセスメント 2) 産婦と家族の心理的・社会的特性と健康問題 3) 産婦と家族の看護 3. 褥婦の理解 1) 褥婦のアセスメント 2) 褥婦の心理的・社会的特性と健康問題 3) 褥婦と家族の看護 4. 新生児の理解 1) 新生児の健康状態のアセスメント 2) 出生直後から母体外生活適応への援助
授業時間外学習 (事前・事後)	形態機能学3「子どもを生む」で学んだ女性生殖器の仕組み、性周期の仕組み、ホルモンの動態、疾病論5で学んだ分娩の異常について復習しておくこと
評価方法	筆記試験、課題合わせて100点満点
教科書	母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	母性看護を理解する上で、大切な正常編を学びます。 予習・復習を繰り返し、知識を定着させることを望みます。

区分	専門分野
授業科目	母性看護学方法論 2
回数(単位)	15回(2講師でテスト1回含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	2年次 後期
科目目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の対象の健康障害と、その看護援助を理解する 2. 周産期の対象の健康状態を観察、評価するための技術を習得する 3. 妊産褥婦と新生児の基本的な看護援助技術を理解する
関連科目	看護形態機能学3 基礎看護技術6 母性看護学概論 母性看護学方法論1. 3
教育内容	1. ハイリスク妊娠、妊娠経過の異常と看護 2. 分娩経過と産婦の健康異常の看護 3. 産褥期の健康異常と看護 4. 周産期に必要な基本技術【校内実習】 1)生活援助技術(新生児の世話) 2)症状観察技術(妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察) 3)生活指導技術(褥婦への保健指導)
授業時間外学習 (事前・事後)	テキスト掲載の技術、疾患等は各自でも自己学習を行うこと
評価方法	筆記試験、課題を合わせて100点満点
教科書	母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	母性看護学方法論1.3と共に、母性看護学実習を進める上で直接関連する科目です。各自積極的に学習、演習に参加しましょう

区分	専門分野
授業科目	母性看護学方法論 3
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
科目目標	<p>1. マタニティサイクルにある女性の事例を通して、看護過程を展開することができる</p> <p>2. 女性の生涯におけるリプロダクティブヘルス/ライツについての問題を理解し、それに対する看護の方法を理解することができる</p>
関連科目	看護形態機能学3 基礎看護技術6 医療安全2
教育内容	<p>1. 周産期の事例を用いた看護過程の展開</p> <p>2. 女性の健康と看護(リプロダクティブヘルスケアの実際)</p> <p>1) 災害時における母性看護</p> <p>2) リプロダクティブヘルスに関する看護 (日本における性教育、人工妊娠中絶と看護、不妊治療と看護、性感染症の予防と看護、ハイリスク出産と看護など)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	事前学習として、妊産褥婦及び新生児の正常編、異常編を復習しておくこと
評価方法	看護過程(75点) レポート(20点)出席・授業態度(5点)
教科書	母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	講義はペアワークで進めます。母性看護学実習に向けての基礎作りとなります。事前課題に取り組んで出席してください。

区分	専門分野
授業科目	精神看護学概論 2
回数(単位)	15回(テストを含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	人間の心の働きを、ライフサイクルから見た発達環境との相互作用と、その適応について学び、精神に疾患を持つ対象を理解する
関連科目	看護形態機能学1 疾病論5 心理学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神(心)の発達に関する主要な考えかた エリクソン、ボウルビィ、マズロー、ピアジェの考え方について</li> <li>2. 暮らしの場と精神の健康 学校、職場、地域について</li> <li>3. 精神(心)の危機状態と精神保健 1) 危機モデル、ストレスとコーピング、適応と不適応、セルフマネジメント 2) 防衛機制と対処行動</li> <li>4. 現代社会と精神(心)の健康 1) 社会構造の変化と社会病理 2) 現代社会における精神保健の主な問題 ドメスティックバイオレンス、不登校、虐待、犯罪・非行、各種依存、ハラスメント、SNSの影響など</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	精神看護学① 精神看護の基礎(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	精神看護学方法論 1
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
科目目標	1. 精神障害を持つ人を理解する 2. 精神障害者の治療過程における看護を理解する 3. 地域精神保健活動について理解する
関連科目	社会福祉学 疾病論5
教育内容	1. 精神医療・看護の目的, 役割, 対象者 2. 精神障害を持つ人と「患者－看護師」関係の構築 1) 精神科におけるコミュニケーション 2) コミュニケーションにおける基本姿勢・コミュニケーション技術 3) リハビリテーション療法と看護 3. 治療過程における看護 1) 外来・入院患者の看護 2) 療養環境と看護 3) 検査における看護 4) 精神科における身体療法 5) 精神療法 6) リハビリテーション療法 4. 災害時の地域精神保健医療活動 5. 患者と家族を取り巻く地域精神医療資源
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点) (内訳 松本30点 杉浦70点)
教科書	精神看護学②精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	精神看護学方法論 2
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	2年次 後期
科目目標	精神疾患を持つ人への看護を理解する
関連科目	疾病論5
教育内容	1. 精神に疾患を持つ人への援助 (統合失調症・躁うつ病・神経症・アルコール依存症・人格障害・摂食障害等) 1)心を病む人たちへの精神世界の理解 2)心を病むことへの日常生活への影響 3)心を病む人たちの健康的な側面の理解 4)心を病む人への援助
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	精神看護学②精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	統合分野
授業科目	医療安全2
回数(単位)	11回 (2講師でテスト1回を含む) (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューマンエラー発生要因を分析し予防の視点が分かる</li> <li>2. 安全な看護を提供するための判断力と実践する力を高めることができる</li> <li>3. ME機器における取り扱い方法と使用時の留意点がわかる</li> </ol>
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 注射業務と事故防止</li> <li>2. 輸液ポンプ・シリンジポンプ関連での事故防止</li> <li>3. 輸血業務と事故防止</li> <li>4. 内服与薬業務と事故防止</li> <li>5. 経管栄養(注入)業務と事故防止</li> <li>6. チューブ管理と事故防止</li> <li>7. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因</li> <li>8. 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断</li> <li>9. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	病院の医療安全活動(ポスターセッション・発表会)に参加
評価方法	筆記試験(75点満点)
教科書	看護の統合と実践② 医療安全(医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	統合分野
授業科目	医療安全2
回数(単位)	4回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 災害において特徴的な病態、心理を知り、援助方法を理解する 2. トリアージの方法がわかる
関連科目	
学習内容	1. 災害看護とは 2. 被災者への看護ケア 1) 災害直後の被災者へのケア 2) 災害復興期の被災者へのケア [訓練] 災害拠点病院・大規模災害訓練におけるトリアージ
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	看護学概論 基礎看護学1 (メディカ出版)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	栄養学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	2年次 後期
学習目標	1. 各栄養素の人体における役割を理解する 2. 病因における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法を理解する
関連科目	生化学 基礎看護技術2
学習内容	1. 栄養学の基礎知識 ・各栄養素の栄養的役割 ・エネルギー代謝 ・栄養所要量とエネルギー所要量 ・ライフステージと栄養 2. 食品について ・消化の良い食品、悪い食品 ・6つの基礎食品 3. 食事療法について ・病人食の種類と形態 ・食事療法と看護 ・疾患と食事療法 消化器疾患(胃・腸疾患、肝臓病) 内分泌、代謝疾患(甲状腺機能亢進症、肥満) 糖尿病 循環器疾患(高血圧、高脂血症) 腎疾患 妊娠 熱性疾患 感染症 血液疾患 小児疾患 アレルギー疾患 濃厚流動食 ・NSTの活動
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	人体の構造と機能③ 栄養学 (医学書院) 別巻5栄養食事療法 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論5
回数(単位)	6回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	精神疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。
関連科目	心理学 看護形態機能学2 精神看護学方法論2
学習内容	1. 精神疾患の病態生理 統合失調症 躁うつ病 神経症 心的外傷後ストレス症候群 人格障害 アルコール依存症 薬物依存 神経性食欲不振症 老人性精神病(うつ) 2. 精神疾患の検査 神経学的検査 身体的検査 心理的検査 3. 精神疾患の治療 薬物療法 精神療法 社会療法
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論5
回数(単位)	6回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 周産期疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。 2. 女性生殖器疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。
関連科目	看護形態機能学3 母性看護学方法論1. 2
学習内容	1. 周産期疾患の病態生理 妊娠中毒症 流早産 胎盤早期剥離 多胎妊娠 体位の異常(骨盤位) 異常出血 胎児付属物の異常(前期破水・前置胎盤) 2. 周産期疾患の検査 超音波検査 ホルモン検査 羊水穿刺 NST 3. 周産期疾患の治療 薬物療法 手術療法(帝王切開) 吸引・鉗子分娩 4. 女性生殖器疾患の病態生理 子宮内膜症 子宮筋腫 子宮癌 卵巣腫瘍 性感染症 不妊症 月経異常 5. 女性生殖器疾患の検査 細胞診(スメアテスト)細胞学的検査 細菌学的検査 卵管疎通性検査法 超音波検査 ホルモン検査 6. 女性生殖器疾患の治療 広範全摘出術 単全摘出術
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	成人看護学9(女性生殖器) 医学書院 母性看護学②各論 医学書院
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論5
回数(単位)	3回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 泌尿器疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。
関連科目	看護形態機能学1. 4
学習内容	1. 泌尿器疾患の病態生理 腎盂腎炎 腎・尿管結石 腎細胞癌 膀胱癌 前立腺癌 前立腺肥大症 勃起障害 2. 泌尿器疾患の検査 尿検査 膀胱鏡 造影検査 超音波検査 生検 尿流測定 3. 泌尿器疾患の治療 体外衝撃波碎石術 膀胱摘出術(尿路変更術) 前立腺摘出術
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(20点満点)
教科書	成人看護学8(泌尿器)医学書院
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論6
回数(単位)	7回+5講師でテスト1回 (5講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 小児疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。
関連科目	看護形態機能学1. 2 小児看護学方法論2. 3
学習内容	1. 小児疾患 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児の疾患: 低出生体重児</li> <li>2) 免疫・アレルギー・リウマチ疾患(呼吸器疾患): 気管支喘息</li> <li>3) 感染症: 小児感染症と予防接種、髄膜炎</li> <li>4) 循環器疾患: 先天性心疾患、川崎病、乳幼児突然死症候群</li> <li>5) 消化器疾患: 消化器の先天異常、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、乳幼児下痢症</li> <li>6) 神経疾患: 熱性けいれんとてんかん</li> </ul>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(60点満点)
教科書	小児看護学各論2(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論6
回数(単位)	2回+5講師でテスト1回 (5講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 耳鼻咽喉科疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる。
関連科目	看護形態機能学3
学習内容	1. 耳鼻咽喉疾患の病態生理 メニエール病 中耳炎 突発性難聴 老人性難聴 顔面神経麻痺 アレルギー性鼻炎 副鼻腔炎 鼻出血 扁桃炎 舌癌 2. 耳鼻咽喉疾患の検査 耳管通気検査 聴覚検査 平衡機能検査 喉頭鏡検査 眼振検査 3. 耳鼻咽喉疾患の治療 洗浄 鼓膜切開 補聴器 鼻出血の処置 吸入 減感作療法 手術療法(副鼻腔手術・喉頭・咽頭・ 舌切除術 鼓室形成術)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(10点満点)
教科書	成人看護学14(耳鼻咽喉)医学書院
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論6
回数(単位)	2回+5講師でテスト1回 (5講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 皮膚疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1
学習内容	1. 皮膚疾患の病態生理 湿疹・皮膚炎(アトピー性皮膚炎) 膠原病(SLE 強皮症 皮膚筋炎) 熱傷 凍傷 带状疱疹 疥癬 2. 皮膚疾患の検査 知覚検査 皮内テスト パッチテスト 3. 皮膚疾患の治療 薬物療法(局所 全身) レーザー療法
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(10点満点)
教科書	成人看護学12(皮膚)医学書院
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論6
回数(単位)	2回+5講師でテスト1回 (5講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 眼科疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学2
学習内容	1. 眼科疾患の病態生理 近視 遠視 乱視 結膜炎(流行性結膜炎) 網膜症 網膜はく離 白内障 緑内障 斜視 2. 眼科疾患の検査 視力検査 屈折検査 調節力検査 眼底検査 眼圧測定 視野検査 色覚検査 3. 眼科疾患の治療 点眼薬 洗眼 矯正 光凝固 冷凍凝固 手術療法(硝子体手術 角膜手術)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(10点満点)
教科書	成人看護学13(眼)医学書院
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論6
回数(単位)	2回+5講師でテスト1回 (5講師で1単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	放射線治療・検査の原理及び生体への影響について述べることができる
関連科目	看護に生かす物理学
学習内容	1. 放射線医学の基礎的原理(X線) 2. 放射線検査(CT・血管造影・IVR・MRI・RI・超音波) 3. 放射線治療と合併症 4. 放射線防御(3原則)と健康管理 5. 胸腹部のX線、頭部のCT、MRIの見方
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(10点満点)
教科書	別巻7 臨床放射線医学 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	社会福祉学
回数(単位)	15回(テスト1回を含む) (2単位30時間)
開講年次	2年次 前期
学習目標	1. 社会福祉の意味と社会福祉、社会保障制度の実際について理解する。 2. 社会福祉と医療の関連について理解する。
関連科目	在宅看護概論
学習内容	1. 社会福祉の意味と構造 1) 社会福祉と社会保障 2) 社会保障の体系 2. 社会保障制度の実際 1) 医療保障(医療保険) 2) 介護保障(介護保険) 3) 所得保障(年金保険、雇用保険、労災保険) 4) 公的扶助(生活保護法) 3. 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) 児童・家庭福祉 4. 社会福祉実践 1) 社会福祉援助とは 2) 社会福祉援助と医療・看護との連携
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	健康支援と社会保障制度3 社会福祉(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	看護と倫理
回数(単位)	7回＋2講師でテスト1回（2講師で2単位30時間）
開講年次	2年次後期
学習目標	1. 専門職としての看護を考える 2. なぜ、看護倫理が必要なのかを考える
関連科目	基礎看護学概論      関係法規
学習内容	1. 看護職に求められる倫理 2. 倫理綱領について 3. 看護の場で生じやすい倫理上の問題 【演習:事例を用いたグループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	50点満点
教科書	看護学概論 メディカ出版
参考文献	看護者の基本的責務
講師のコメント	看護倫理を学習し、実習や臨床での看護の道しるべとして欲しい

区分	専門基礎分野
授業科目	看護と倫理
回数(単位)	8回（2講師でテスト1回）2講師で2単位30時間
開講年次	2年次後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に必要な倫理的な概念を理解する</li> <li>2. 倫理綱領を通して看護師としての倫理的態度を考える</li> </ol>
関連科目	基礎看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理と看護倫理の歴史的背景</li> <li>2. 看護倫理の原則 サラフライの看護倫理 看護実践上の倫理的概念</li> <li>3. 倫理的感受性を磨く「実習上で感じた倫理的問題を事例を通して考える」 【演習:グループワーク】</li> <li>4. 生命倫理「DVD事例を通して倫理的ジレンマを考える」 【演習:グループワーク】</li> <li>5. 看護職の倫理綱領 「看護学生の倫理綱領」を作ろう(グループで検討、共有) 【演習:グループワーク】</li> </ol>
授業時間外学習 (事前・事後)	事後課題レポート: 看護職の倫理綱領を読み、グループワークで考えたことも踏まえて、今後の実習で自分はどのように行動するのか、各項目毎に考えを整理する
評価方法	50点満点（課題含む）
教科書	看護学概論（メディカ出版） 看護職の基本的責務（日本看護協会出版会）
参考文献	
講師のコメント	看護倫理の必要性を学び、実習や臨床での看護の道しるべとして欲しい。 また、他者との意見交換を行なうことで、様々な価値観に触れ、自身の道徳的価値観を育み、成長してもらいたい。

授業科目	特別講義(排泄ケアーおむつの当て方について)
時間(単位)	4時間
開講年次	2年次 基礎看護学実習2 直前
ねらい	<p>オムツについて理解し、装着の技術を習得する</p> <p>この講義は、ユニ・チャーム株式会社 排泄ケア研究所より講師を招いておこなう。排泄ケア研究所は、全国の施設・病院で排泄ケアの実態を調査し、リハビリ紙パンツを使ったトイレ誘導・自立排泄支援を提唱し、さまざまな角度から排泄ケア理論の実践活動を行っている。排泄ケアを専門に考えている講師より相手の状況にあった正しいオムツの選択ができる知識と相手に負担が少ないオムツの装着の技術を基礎看護学実習2に向け身に付けてほしい。</p>
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(感染対策)
時間(単位)	2時間
開講年次	2年次 基礎看護学実習2 直前
ねらい	<p>標準予防策を実践できる</p> <p>標準予防策は、感染予防のために標準的に用いる最も重要で基本的な感染対策である。一人ひとりが正しい知識を持ち正しい方法で実施してはじめて医療従事者を介しておこる感染から周囲の人、自身を守ることができる。標準予防策は、複雑で困難さを伴うものではない。今回は、安城更生病院 感染制御部より講師を招く。基礎看護学実習2に向け正しい知識と技術を身につけてほしい。</p>
事後課題	実習終了後、レポート提出

\* 特別講義は、変更の可能性があります

授業科目	特別講義(厚生連看護師会看護研究発表聴講)
時間(単位)	4時間(半日)
開講年次	2年次 秋(土曜日または祝日)
ねらい	<p>看護の質向上のための看護研究の取り組みについて知る機会を持つ</p> <p>看護の質向上への取り組みとして、看護研究は欠かせない活動である。当校は、3年次に看護研究の基礎をケーススタディーの取り組みから学ぶ。厚生連看護師会では、厚生連に所属する看護師が病院を代表し、看護研究発表会を毎年11月頃開催している。発表会に参加し、厚生連看護師が看護の質の向上のためにどのように取り組んでいるのか、実際を知る機会としたい。</p> <p>また、発表会は、厚生連8病院から数百人の看護師と当校を含め厚生連看護学校3校の学生が参加する。地域医療を支えるJA愛知厚生連に所属する学生である意識を高める機会としたい。</p>
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(口腔ケア)
時間(単位)	2時間
開講年次	2年次 1月(領域別実習開始前)
ねらい	<p>歯科医の視点から口腔ケアについて学ぶ</p> <p>基礎看護技術で口腔ケアについて学んだ。しかし疾病論・看護方法論では、学びを深める機会が持ちにくい領域である。歯科医師の視点から歯周病を中心に口腔ケアの意義について話を聞き、歯周病が全身に及ぼす影響や口腔ケアのあり方について理解を深める機会としたい。</p>
事後課題	レポート提出

\* 特別講義は、変更の可能性があります

授業科目	特別講義(在宅療養者へのリハビリテーション)
時間(単位)	2時間
開講年次	2年次 1月(領域別実習開始前)
ねらい	<p>在宅リハビリテーションの意義や他職種との連携・協働の重要性について理解を深める</p> <p>この講義では、在宅療養者を支える施設を運営する立場にある講師から、在宅リハビリテーションについて、ケアの実際を聞く機会を持つ。その語りを通し、多様な場で生活する療養者の現状について知り、在宅リハビリテーションの意義や他職種との連携・協働の重要性について理解を深める機会としたい。さらに、3年次より始まる在宅看護論実習に向け意欲を高める機会としたい。</p>
事後課題	実習終了後、レポート提出

\* 特別講義は、変更の可能性があります

区分	専門分野
授業科目	基礎看護学実習2
単位(時間)	2単位90時間
開講年次	2年次 前期
目的	対象を生活者として理解しより安寧な状態であるように、根拠に基づいた日常生活援助の実践能力を養う
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病床環境を安全で快適な環境に整えることができる</li> <li>2. 安楽・自立のバランスの取れた安全な日常生活援助が実施できる</li> <li>3. 適切な方法を選択し、正しい手技を用いて正確(客観的)に観察ができる</li> <li>4. 相手を尊重し相手の状況に合わせたコミュニケーションが図れる</li> </ol>
実習内容	<p>1) 基礎看護学実習1-②や基礎看護学実習2の評価表から自己課題を明らかにし、課題解決に向けてビジョンゴールを設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己課題を評価し、課題達成に向けて実習に取り組む</li> <li>・リフレクションを行う</li> </ul> <p>2) 看護学生として対象と良好な関係性を築くためのコミュニケーションを図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に深く関心を持つ</li> <li>・あるがままの相手を受け止める気持ちで接する</li> <li>・相手の思いを感じ取ろう、分かろうとする姿勢をとる</li> </ul> <p>3) 相手に合った日常生活援助を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活をしている人として相手を捉える</li> <li>・相手の会話やカルテから入院前と現在の生活を比較しその人らしい日常生活援助を考える</li> <li>・その日の相手の状態に合わせ援助を再考し相談する</li> <li>・清潔、食事、排泄、活動の援助を行う</li> <li>・訪室時、病床環境を整える(検温時、日常生活援助時、環境整備時)</li> </ul> <p>4) 体調や精神面の僅かな変化を捉える</p> <p>その場に応じて必要な観察を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の根拠を、病態や形態機能から考える</li> <li>・検温、援助時、訪室時観察を行う</li> </ul> <p>5) 体験を振り返り、安寧な日常生活を送るための援助について明らかにする</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>